

# カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Megha Shukla  
出身地：インド・カンパール  
所属：エネルギー資源研究所 (TERI) 研究員  
日本滞在：2007年4月～7月

## 日本での様々な体験

メガ・シユクラ

私の体験を皆さんに知っていただく機会を提供してくださったことに、アジ研に感謝したい。日本での生活に関する限り、私は複雑な気持ちであった。だが、多くのことを学べた。二度目の来日であったため、様々な体験を通して有意義に過ごせた。

日本が「日出ずる国」であることを私は書物で知ったのだが、早朝の四時三〇分頃に夜明けの輝きを見たときに、そう信じていることができた。早起きする人々の国でもあるから、日本がするように例えられるのだろうか。ここではあらゆるものに規則性がみられ、私にとっては大いに学ぶべき点もあった。来日以来、私はアポイントを書き留めたり、スケジュール管理を綿密に行ってきた。このような時間の管理方法は、日本人の人々から学んだといえる。

日常生活に慣れてもらおうと、大概の日本人は外国人に驚くほど親切で、しかも丁寧だ。日本での滞在中、私のカウンターパートである内田さんや桜井さんに助けもられる、と内田さんから聞いたときには驚嘆した。他の国であれば、そのようなことは期待できないかもしれないから！外国人には日本が住みにくい場所である、と日本人が思っているためだろうか。

都内を散策中、携帯電話、ビデオゲーム、

iPodに人気があることに私は気づいた。それは興味深いことでもあった。電車内で乗客がそのような機器に熱中しているため降りるべき駅に気づかず、その次の駅で慌てて電車から降りる光景を見たものだ。さらに、お守りがついた携帯電話や、若い女性の携帯電話には爪の色に合うようにペイントされているものもあり、見ていて面白く、とてもすばらしかった！

但し、不快に思ったこともあった。パソコンはかなり扱いにくかった。日本語で文字を入力していることに気づいたため、入力した文字を全て確認しなければならなかった。プリンター、スキャナーなどのハイテク機器を使用した際も、似た体験をした。これらの機器は非合理的なもので、日本人以外の者には厄介なものであった。

アパートに移り住んだときに困ってしまったことも、ここで話したい。電化製品の取扱説明書には英語表記がなかったため、一人取り残されたような気がした。部屋にある給湯器の使い方を理解するのに丸一日かかってしまった。給湯器のスイッチがどこにあるのかも分からず、近所の人に助けを求めたが、彼らの親切心に感謝したい！  
食料雑貨店にも英語の案内がなかったため、買いたいものが分かっていても、特に

日本のスーパーマーケットでは、おかしな体験をしてしまった。有名ブランドの歯磨き粉を探していたときのこと。数軒のスーパーマーケットでその売場を尋ねたのだが、最終的に私は薬を購入してしまった。でも、次の来日の際には、インドからそのような必需品を日本に持つてこようと思ったため、私は気にしないことにした。

このような出来事は続いた。ヨーグルトの代わりにフルーツ風味の牛乳を、チーズの代わりにバターを買ってしまったけれど、安価な牛乳が低脂肪乳であることを推測できるまでになった。これまでの経験や推測に基づいて、日本で買いたい物をする方法を私は身につけていった。だからといって、商品の原材料を理解できるほどの日本語を、私が学んだわけではなかった。

そのため、多くの良い思い出ができた一方で、不可解な体験もしてしまった！しかし、この海外客員研究員のプログラムは、私が参加できたものなかで最も専門的で、組織化されたプログラムの一つであった、と最後に言いたい。客員研究員として選んでくださったことを、私は大変光栄に思う。その体験はまた、私の人生で最も忘れがたいものとなり、今後も大切にしていきたい。

(前海外客員研究員／訳 梶山貴史)